



只今ご紹介いただきました森崎です。開会に先立ちまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日「NASHIM 設立30周年記念シンポジウム」をオンラインライブ配信という新たなスタイルで開催いたしましたところ、多くの皆様方のご参加を賜り、心からお礼申し上げます。

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会、通称 NASHIM は、在外被爆者及び世界各地で発生した放射線被曝事故による被災者の救済を目的として、長崎大学、長崎大学医学部、日本赤十字社長崎原爆病院、放射線影響研究所、県・市医師会等と長崎県、長崎市が構成メンバーとなり、平成4年4月に設立されました。

設立以来、NASHIM は被爆地・長崎が有する被爆者医療の実績と放射線障害に関する調査研究の成果を活かし、チェルノブイリ関連諸国・カザフスタンからの医師受入研修や韓国からの医療従事者受入研修、専門医師の派遣、医学教科書の出版などの事業を行い、今年で設立30周年を迎えることとなりました。

また、平成7年に故永井隆博士の崇高な平和希求の精神を引き継ぎ、国際社会におけるヒバクシャ医療の向上、発展に貢献のあった方を広く顕彰するため、「永井隆平和記念・長崎賞」を創設し、13回で15名の受賞者を数えるに至りました。

このたび、NASHIM のこれまでを振り返り、これからの活動と今後の課題についてご提言いただくシンポジウムを開催いたしますが、このシンポジウムが皆様のヒバクシャ医療に対するより一層の理解と、ヒバクシャ医療を通じた長崎からの国際貢献の推進に役立つものとなれば幸いに存じます。

講演をご快諾いただいた講演者の方々に心からお礼申し上げますとともに、座談会のパネリストの皆様には「NASHIM のこれからの活動と今後の課題」について、活発なご議論と忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしく願いいたします。

最後になりましたが、開催にご尽力いただいた関係の皆様には厚くお礼申し上げますとともに、本日、ご参加の皆様のみますますのご健勝とご活躍をお祈りいたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

令和4年2月20日

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会会長 森崎 正幸